



河道技術部会 資料
(詳細設計概要について)

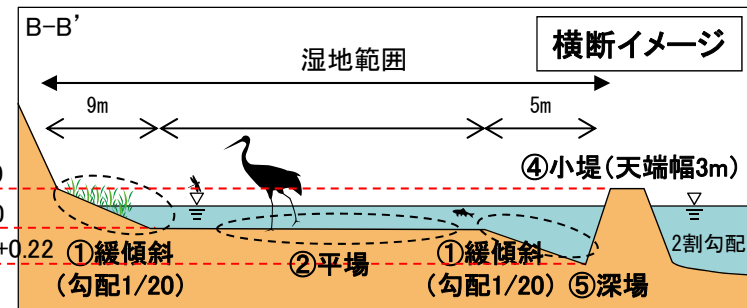
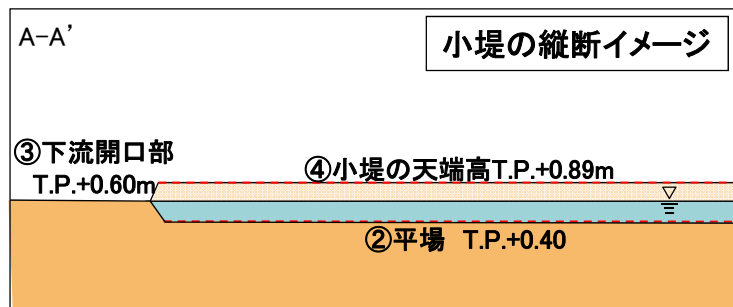
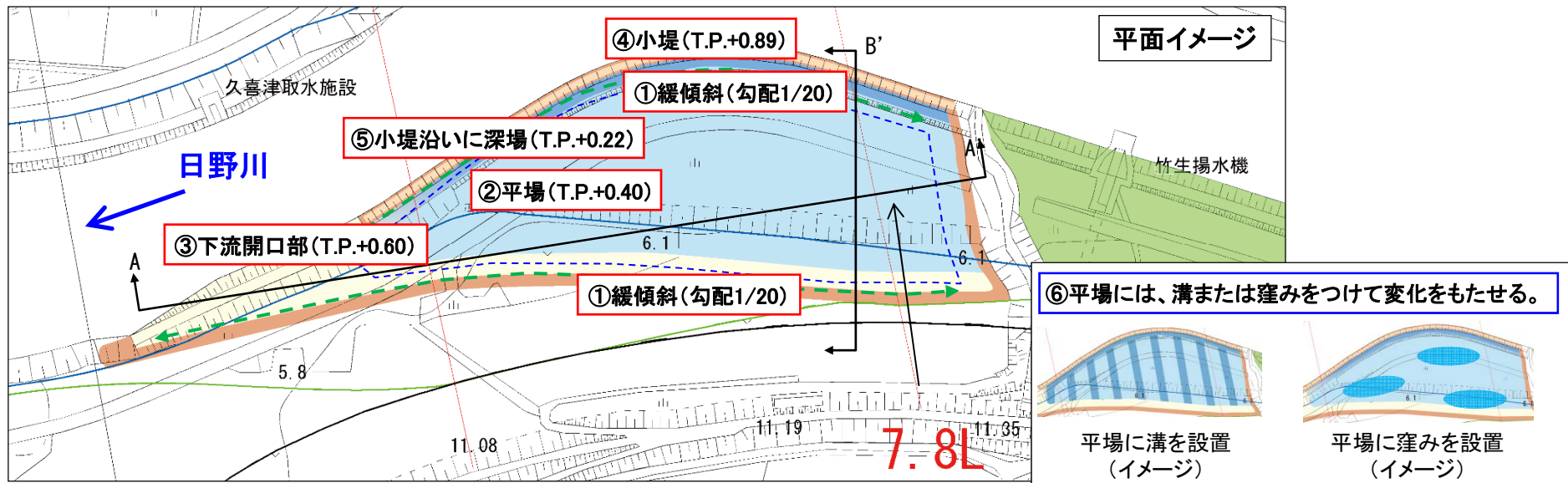
平成29年(2017年)2月9日
近畿地方整備局 福井河川国道事務所

目 次

第4回河道技術部会までの形状案P.1
第4回河道技術部会意見を踏まえた詳細設計概要P.2
2016年度工事の実施状況P.3
2017年度以降の予定P.7
改修後のモニタリング調査P.8
「日野川水防災・湿地創出事業」着工式P.9

第4回河道技術部会までの形状案

- ① 水平掘削と斜め掘削(勾配1/20)で湿地を造成する。
- ② 平場高さは湿地確保日数が最大となる高さとする。(T.P.+0.40m)
- ③ 下流は開口部を設ける。(T.P.+0.60m)
- ④ 小堤は冬場の豊水位程度の高さとする。(T.P.+0.89m)
- ⑤ 小堤沿いに深場を設ける。(T.P.+0.22m)
- ⑥ 平場には、溝または窪みをつけて変化をもたせる。



第4回河道技術部会意見を踏まえた詳細設計概要

【第4回技術部会における意見】

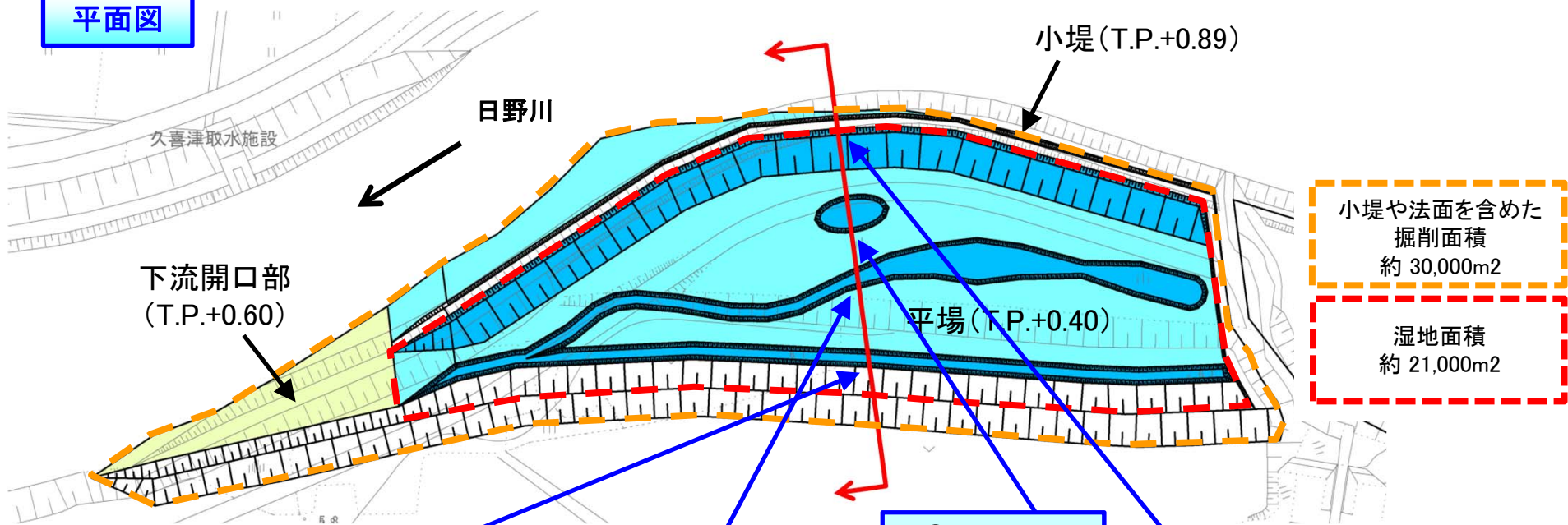
- 小堤沿いの深場、平場の溝や窪みで水深80cmを確保する。
- 平場の深みは小堤沿いの深場に接続させる。
- コウノリの採餌場としては深場が繋がっていない方が良い。

【詳細設計概要】

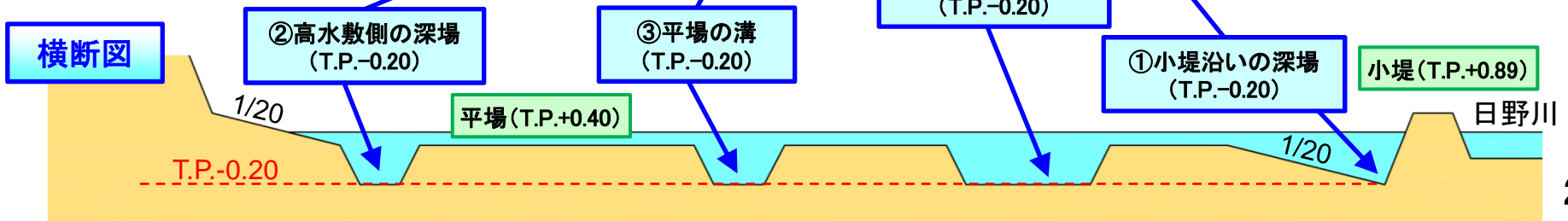
- ① 小堤沿いに深場を大きくし、水深80cmを確保する。(T.P.-0.20m※)
- ② 小堤決壊時の代替地、植生の侵入防止のため、高水敷側にも深場を設ける。(T.P.-0.20m※)
- ③ 平場に溝を設け、高水敷側の深場と接続させる。(T.P.-0.20m※)
- ④ 平場に小堤沿いの深場と接続しない窪みを設ける。(T.P.-0.20m※)

※下流開口部高(T.P.+0.60m)で湛水した場合に80cmを確保できる高さ

平面図

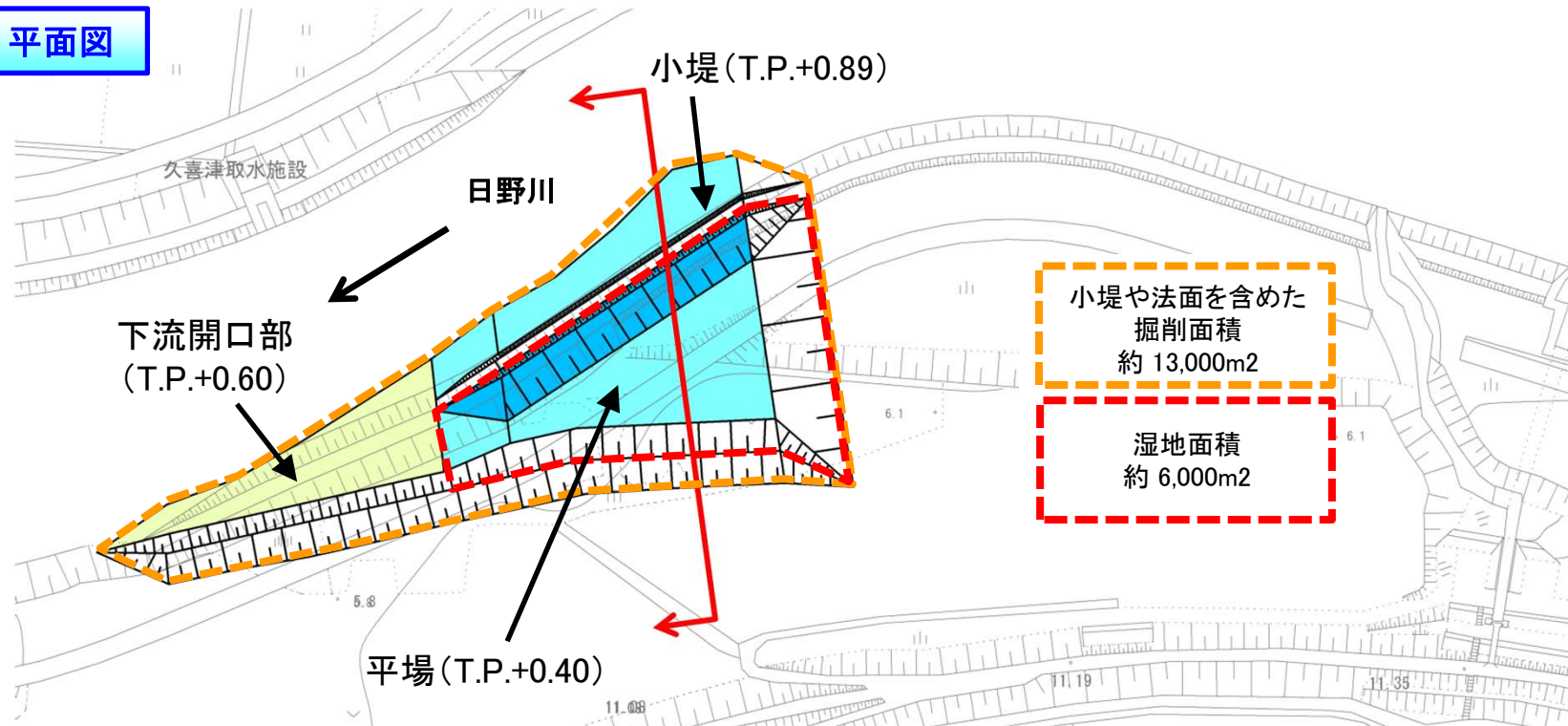


横断図

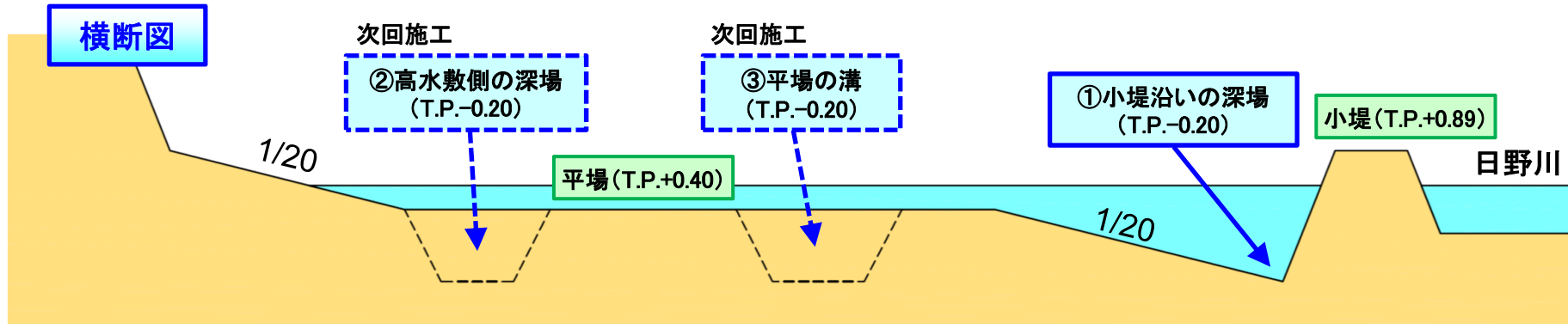


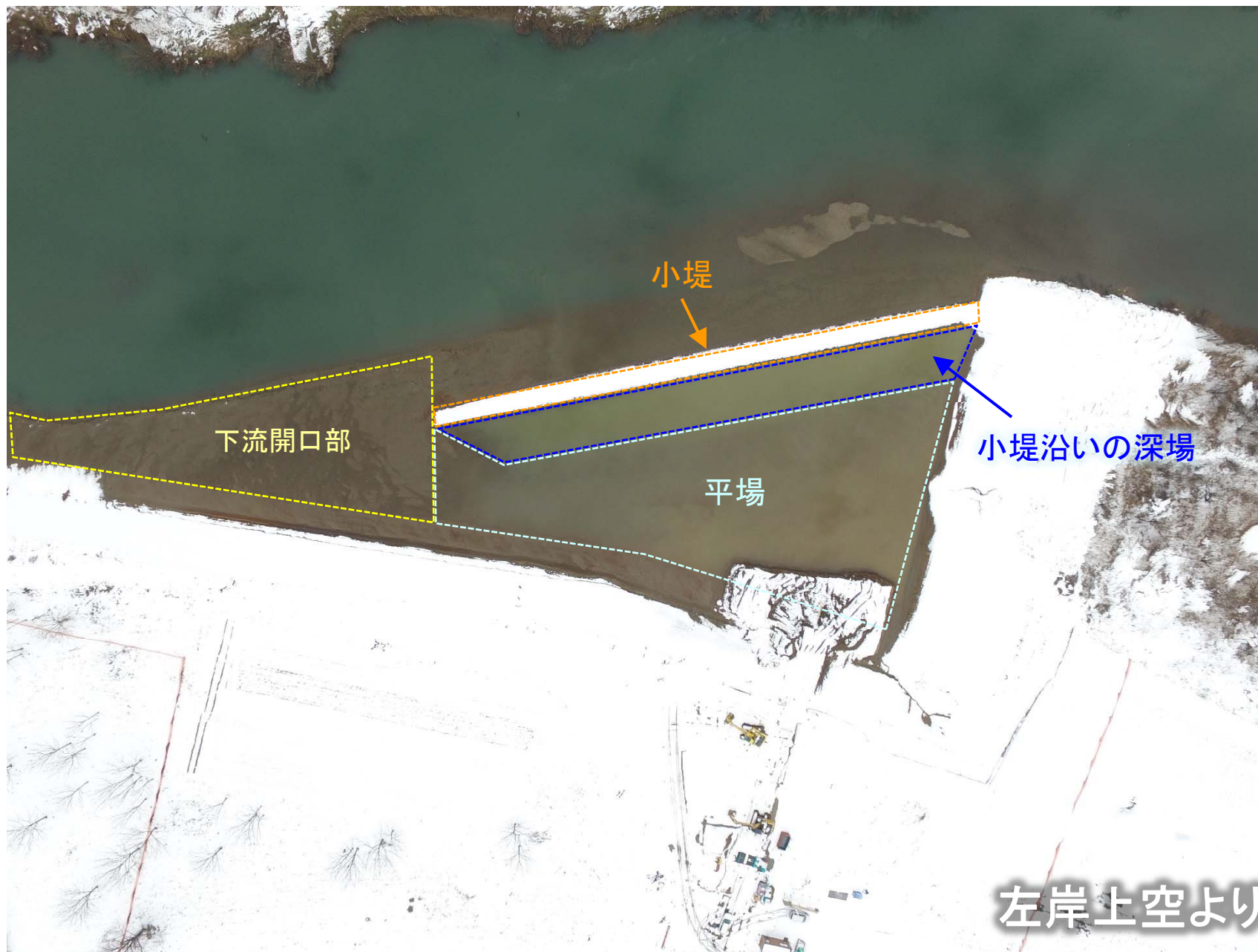
- 2016年度工事では湿地の下流側から下流開口部、小堤、平場の造成を進めています。

平面図



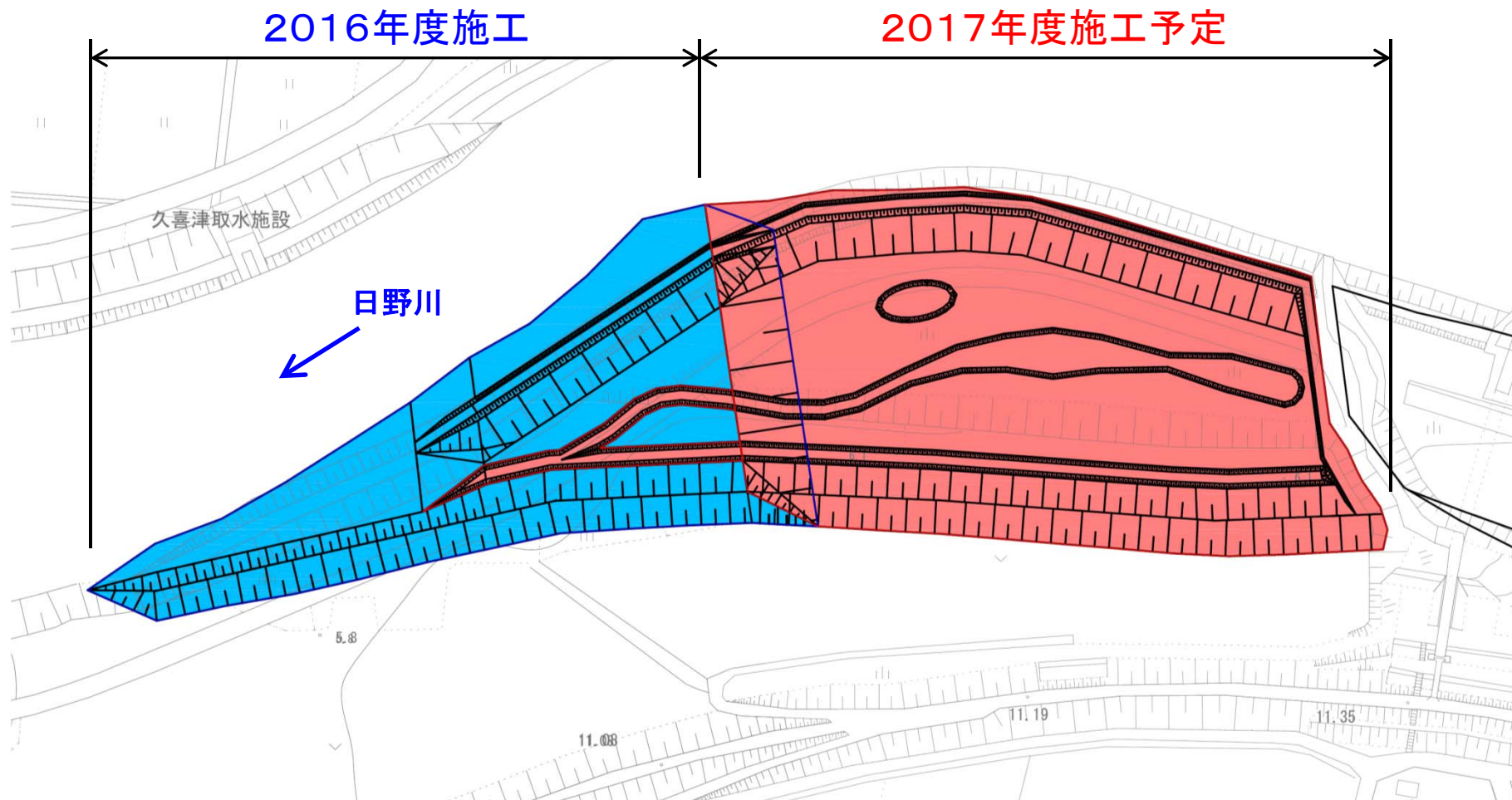
横断面図











・2017年度に残りの範囲の施工を行い、その後、施工後の環境調査(モニタリング)を行う予定としています。

改修後のモニタリング調査

【改修後のモニタリングの考え方】

河道掘削工事後の動植物を調査し、湿地創出に伴う環境の変化を把握する。

【改修後のモニタリングの実施時期】

整備単位ごとの改修が完了後、下記のスケジュールで改修後のモニタリングを行い、5年後の状況を見て評価する。

なお、状況に応じて実施年以外の年での補足調査を実施する。

調査項目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	設定理由
両生類・爬虫類・哺乳類 鳥類		●			●☆	移動能力が高く、改修後に環境が整えば速やかに確認が期待できる。
魚類 底生動物 陸上昆虫類 植物			●		●☆	移動能力が低く、改修後に環境が整っても確認されるまでには時間がかかる。

凡例 ●:モニタリング実施年 ☆:評価年

「日野川水防災・湿地創出事業」着工式

平成28年(2016年)11月29日に日野川左岸(福井市竹生町)河川敷にて着工式を開催。



着工式では福井市長を始め、福井県土木部参与、福井市建設部長、片粕町自治会長、竹生町副自治会長等、約20名に出席して頂き、福井河川国道事務所長の式辞・来賓祝辞後、工事安全祈願の鍬入れ式が行われました。